

わたしの好きな言葉

14

花巻まりか

木嶋佳苗と対話

木嶋佳苗「私は今まで男を嫌いになったことがありません」

まりか「嘘やーん。きみ、ほんまは憎くてしょうがないんやろ」

木嶋佳苗「いいえ、ありません」

まりか「でも最終的に4人殺したよね??」

どうして殺さなければならなかったのか。殺さなくても良かったはずだ。佳苗が別れを切り出したら相手が激昂して身の危険を感じた、というシチュエーションは考えにくい。なぜならその夜男は、佳苗の煮込んだ美味しいシチューを食べた後に殺されたのだから。不思議だ。佳苗は、本当は男という存在を恐れていたのだろうか。男たちは皆小柄で弱々しく男らしさを感じさせないタイプだったようだ。下半身を想像してみる。佳苗はセックスが好きだった?本当は苦痛で仕方がなかった?聞きたいこと、たくさんあるよ。佳苗がこの世界から切り離される時、どんな表情を見せるのだろう。どんなことを、思うのだろう。

「佳苗の穴」

佳苗の穴を見つけた

一万円札を放れば

ソプラノ調の美しい声の

喘ぎ声が聞けるとか

千人に1人の名器だとか

出世するとか

様々な噂が立った

泥酔した帰り

佳苗の穴がこっち見てて

金なくて

イラついてたし

無理やり手突っ込んでみたけど

全然入んなくて

なんか

わかったんだよね

小さくて

柔らかくて

優しいおちんちんしか

入んじゃないんでしょ

佳苗の

うそつき